

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101825		
法人名	(株)ユニマツそよ風		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風(すずらん)		
所在地	千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-5-12 みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成24年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(株)ユニマツそよ風の「大丈夫 そよ風があるから」のスローガンをモットーに「そよ風」なら安心・信頼がある、地域にそよ風があるから大丈夫と言われるようなセンターづくりをしていきたいと思っております。センターの理念の「希望を実現しよう」は利用者様一人一人の希望に沿うよう取り組んでいます。外出は個別にての対応が多く生活の幅を広げられるよう、その人らしく生活が出来るよう支援していきたいと考えております。近隣の方々は、野菜を頂いたり、談笑したりとごく自然体なおつきあいをさせて頂いております。近隣の保育所と交流を持ったり、中学生が社会福祉体験に来られたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「希望を実現しよう」をホームの理念に掲げ、利用者一人ひとりの希望に沿った支援の実現に向け、職員が一丸となり取り組んでいる。今年度は、地域とのつながりも強化され、保育園や小学校からの行事へのお誘いや、保育園の散歩の際には当事業所へ寄ってくれるなどの交流がある。さらに近隣の方が野菜を届けに来てくれたりするなど、地域との交流が深まっている。ホーム内においても利用者の笑顔が多く、職員とも馴染みの関係が構築されている。職員の離職も少なく、職員の働きやすい雰囲気築きながら、接遇向上にも力を入れて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	御利用者様のニーズと意思を尊重し生活の質の向上に努めている。希望を実現することを事業所の理念に掲げ、実現できるよう支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえ、利用者の「希望を実現しよう」との理念をつくり、管理者と職員は、その理念をミーティングや会議で唱和確認し、共有してその実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方から野菜をいただいたり、気軽に挨拶を交わす関係になっている。また、地域の保育園や小学校の行事に招待され、参加しています。	事業所自体が地域の一員として自治会に加入し、定期的に会合に出席している。また、保育園や小学校からも行事へのお誘いがあり、保育園の散歩の際には当事業所へ寄ってくれるなどの交流のほか、中学生の福祉体験、専門学校生の実習なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方に行事に参加していただいたり、センターでは、学生の職場体験の受け入れなども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では質疑応答の時間をもうけている。会議で出た意見を基にサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は年に6回開催し、その開催時には家族の方も参加し、アンケートの実施や、行事を同時に催すといった工夫も図っている。会議では報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市の相談員が、月に1回来訪される。また、相談員との意見交換会などにも参加している。	市町村担当者と日頃から運営上の相談など連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、連携に取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、身体拘束廃止に関する勉強会も実施している。	身体拘束をしないケアの実践を目指して、事業所内に身体拘束廃止委員会(4名)を立ち上げ、3ヵ月に1回開催し、伝達研修によって全職員が参加し、それを正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会への参加を促し、防止に努めている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修への参加の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間をかけ契約書、重要事項を読み上げ、ご家族様が理解納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された際に、意見要望をお聞きしている。また、利用者様の意見要望は、ミーティングで話あうようにしている。	利用者や家族が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会としては、面会時や運営推進会議等を通じて把握に努めている。またそれらを運営推進会議の開催時期や会議内容及びサービスの提供に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を聞く場所を設けている。また、年に2回センター長との個別面談を実施している。	管理者は、職員の意見や提案を聞く機会として、日頃の話し合いはもとより、ミーティング(月1回)、スタッフ親睦会、職員アンケートの実施などを設け、内容を検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	信頼のおける人間関係の構築や働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合った研修や勉強会の参加を促し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社内研修に参加する機会を設けたり、他センターへの見学も実施している。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安をうけとめ、家庭的な雰囲気の中で安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望や要望を伺いニーズに反映させることで、ご家族様にも安心していただけるよに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問介護や訪問リハビリなど、状況に応じて他サービスの導入も検討できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、意見を伺い生活の知恵を教わる関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人様の健康状態を細目に報告しており、外部への受診の付き添いもお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ行かれたりしている。	ホームには友人が来訪したり、手紙や年賀状なども良く届く環境にある。また、家族の協力を得て、家族との外出を通じて、馴染みの人や場所との関係を継続する支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって働きかけている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護保険施設に入居された方の面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望の確認が困難な場合も、表情などから意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向の把握には、日常の会話から聴取するほか、家族からのご要望から察知するように努めている。困難な場合には、本人の状況に合った支援方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に以前の生活習慣などを伺いその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェックを行い、日々の体調管理をしっかりと行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では、入居者、家族、居室担当、計画作成、ユニットリーダーが参加しそれぞれの意見を出し合っている。	家族と相談し、記入したアセスメント表や基本情報から課題やニーズを取り込み、介護計画を作成し、担当者会議に付議し、修正を加えて、家族に説明し、同意を得て、プランを実践する。モニタリング(毎月)を通して、プランの検討、再プランの必要があれば手順を最初に戻してやり直す等現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日記入している。特変のある場合は、時系列の記録にし、詳細がわかるようにしている。申し送りノートにて、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問理美容の導入をしている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加したり、地域の学校等の交流にも努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけの病院を受診する方、往診を利用する方もいる。情報は、ご家族様と職員で共有している。	利用者及び家族の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように協力医療機関とも往診、訪問看護等の連携を図り、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化がある際は、往診医や訪問看護師にアドバイスを頂き、適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめに面会に伺い、状態の把握に努める。また、医師や看護師と情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様が望む場所で最後まで暮らすことができるように、意思を尊重し家族の意向も確認しながら支援している。	早い段階から利用者・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、家族の同意をもって、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。また終末期ケアについては体制が整い、家族の協力が得られれば支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署でおこなっている救急救命講習に職員に参加してもらい、知識を身につけてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ミーティングで緊急時の対応の仕方について話し合ったり、マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。	防災訓練は、消防立会いの下、年2回開催している。前回の訓練は、「法定消防設備点検日」と同じ日に実施する等工夫がなされ、近隣住民も参加され、事業者建物のなかの設備や部屋の配置など確認して頂くなど、協力体制が築かれている。	

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮をするとともに、人格を尊重した声掛けをするよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、日頃から心がけ、研修によって職員一人ひとりが適切な対応を図れるよう確認し、実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の日常生活で、選択・自己決定ができるよに、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合った生活のリズムを把握し、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品を購入しメイクをしたり、毛染めをしたりする方いる。また、御自分で整容できない方は、職員が行いきちんと整容できるように心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食事の準備片づけを行っている。職員も一緒に会話を楽しみながら、食事をしている。	食事の準備には、利用者にも声をかけ職員と一緒に取り組めるように支援している。食事の工夫では、外食や行事の際には出張寿司の実施など、利用者の要望も踏まえながら、各種取り組みより楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の状況に応じて、減塩、刻み、ミキサー食、おかゆでの対応をおこなっている。水分摂取が難しい方には、寒天やゼリーなどを召し上がってもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。訪問歯科による口腔ケア診療も行っている。		

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、排泄チェック表を活用し、誘導をおこなっている。	利用者一人ひとりの排泄状況は「排泄チェック表」に記録し、習慣を把握して、定時の声かけ、誘導によりトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、食物繊維や水分を多くとって頂くようにしたり、身体を良く動かせるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日入れるように体制を整え、入浴剤でリラックスしながら入って頂けるように心がけている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴中は安全に入浴できるように支援し、入浴の拒否が見られる際は、無理な入浴は避けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度に身体を動かせるようにし、夜間ゆっくりと休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在の服薬は、薬表を一つのファイルにまとめ、閲覧できるようにしている。薬の変更は、申し送りやホワイトボードに記入することで、明確にわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族の了解のもと、喫煙、飲酒をされたりする方もいる。希望に応じて外食に行き、好きな物を召し上がって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にあった、行事を計画し、ご家族様にもお声掛けをし参加して頂いている。希望に応じ、個別で、映画や買い物、美術館などへの外出も行っている。	一人ひとりの希望に沿って、映画や美術館に鑑賞に出かけられる体制づくりがなされており、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら美容室や馴染みの場所に出かけられるように支援している。	

大森台ケアセンターそよ風(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己で管理されている方もいらっしゃる、買い物の際はできる限り、御本人様と行くようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話したり、手紙のやり取りなども行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせるような装飾にしたり、玄関先には花を絶やさないようにしている。	共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて花や装飾品で飾られ、居心地よく過ごせるように配慮している。廊下やトイレも清潔に保たれ、かつ整頓され歩行などの安全面も配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを用意し、くつろげるスペースを確保している。庭にもベンチを置き談笑できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を使用している。また、入居前に布団を使用していた御利用者様は、そのまま布団を使用している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具やベッド、布団等、また、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような配置を工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター内はバリアフリー構造になっており、手すりも設置されている。		